

URWERK

【ウルヴェルク】



F E A T U R E



(写真・上)UR-103.03/タルガ。手巻き、CaLUR-3.03。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約43時間。ムーブメントの地板はアーカップにブラックPVD加工を施し、3枚で構成される。サテライト方式による時分表示はチタンにブラックPVD加工を施したサテライトにスーパーミノバを複写したインテックスがつく。18Kホワイトゴールド。(写真・右)チタン(グレード2)製の「オービタル・クロス」と呼ばれる軸に時刻を表示した4つのサテライトがつく(右端)。チタン製(グレード5)の「コントロール・ボード」と名づけられた表蓋側にはスモールセコンドと15分表示、パワーリザーブ表示、24時間で30秒範囲の歩度を調整できるファインチューニングを備える。

弱冠28歳の独立時計師フェリックス・バウムガートナーの名は今年のパゼルワールドの話題を作った。ハリー・ウィンストンがオーバス・シリーズ最後のクリエーターとして選んだのが彼だった。ウルヴェルクは彼とデザイナーのマーティン・フレイがジュネーブに設けた工房の名だ。1997年にパゼルフェアに初出展し、99年には独立時計師協会(AHCI)の一員となった。彼らが作る時計にはサテライト、コントロール・ボードといった時計用語とは異なる言葉が登場するが、意匠も機能も他に類をみない。彼らの創造はおよそ6000年前、シュメール人が太陽の動きで時刻を測っていたことに根ざしている。ケースは古代の建造物とも、あるいは古代都市に舞い降りた宇宙船とも見えるが、彼らはタイムマシンだという。すなわち古代の時間概念を21世紀の素材と形で表現したタイムマシンだが、それは宇宙と時間の関係の表現でもある。手巻きムーブメントを搭載し、4時間に1回転する円盤(サテライト)と、それを整く十字型の軸(オービタル・クロス)によって時刻を表示する。時分表示は分表示の弧に沿って移動しながら分を示すが、これは太陽の動きにも相似する。時計の固定概念から逸脱した発想の豊かさは、スイスに根づく時計文化の深さをも反映している。